

初期-後期研修で病理を学べる筑波大で研修しませんか？
 ～ 筑波大病理ではローテートを歓迎しています！（※:→）～

病理（診断病理）

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/diagpatho/>



- ・ どうして病理診断は時間がかかるの？
- ・ 何で病理(病理診断)は分かりにくいのか？



これまでに、そんなまっとうな疑問を持ったみなさん、その答えを見つけに、少しだけ病理を勉強してみませんか？
 病理部ではそんなみなさんのために、以下のプログラムを用意しています。

① 初期研修（“ジュニアレジデント”）ローテーション（1.5-3ヶ月）

目標：病理報告書の内容が理解できる、簡単な病理報告書が書ける。

☆ 疾患の際、私たちの体の中で、どのような細胞がどんな振舞いをしているのか。いわゆる“病理総論”を学んでもらい、**患者さんの体の中でどんな異常がおこっているのか**、即ち「病態」を思い描けるようになってもらいます。勿論進路が決まっている人には特定の臓器、疾患について学んでもらうことも可能です。病理医になるかどうか迷っている人には、雰囲気や独特の仕事スタイルを体験してもらうために、進路決定前のローテーションをお勧めしています。

② 後期研修（“シニアレジデント”）ローテーション（1-6ヶ月）

目標：専門分野について一通りの診断ができる、症例報告ができる。

☆ 専門とする臓器、病変について学んでもらいます。各科とのカンファランスには病理側で積極的に参加してもらいます。臨床像から正しい組織像を思い描ける(=正しい診断ができる)、そんな優れた医師を目指す方には6ヶ月のローテーションをお勧めしています。筑波大病理では内科、外科、いずれの診療科からのローテーションも受入れています(各診療科責任者の了解が必要です)。

③ 大学院（博士）への進学

☆ 分かりにくいと言われている病理を、一緒にわかりやすいものにしていきましょう!!



(※)病理を専門にしたい、という方はもちろん大歓迎。
 そんな方に向けて、もう少し詳しいご案内。

1. 研修について

筑波大病理では、それぞれの人に合わせた“テイラーメイド研修”こそが最良の研修と考え、皆がそれぞれに合ったペースでのびのび研修できれば、と考えています。研修目標の一つは病理専門医および細胞診専門医(指導医)の資格取得で、いずれも合格率が70%程度の試験なのですが、これまでに受験した研修修了者は100%が1回で合格しています。2007年からは、レジデントと大学院博士課程を並行させるアカデミックレジデント制度を開始させ、既に2名が研修を終えると同時に学位(博士)を取得しています。



では、何をもって“テイラーメイド研修”、つまり“皆さんの要望に応えた研修”が可能であると言っているのでしょうか？ それは...
0. 専門医の取得率(合格率)が100%
1. 大学病院として全国トップクラスの症例数
2. 大学病院で採用できるレジデントの数に上限がない。
3. レジデントを派遣しなくてはならない病院がない。
4. “ナショナルセンター”等、「名のある」施設での研修も容易に用意。
 ⇒ (右上へ) 本当!? これって茨城県が人口あたりの病理医数が先進国の中で最も少ない地域の一つだから可能な...?

そうなんです。先進国の中で、茨城県は最も病理医を大切にしてくれる地域なのです。

県内基幹病院からも含め年間約20000件の、質、量とも豊富な症例が経験できます。また、県内には大学病院以外、研修可能な施設が事実上、ありません。このため院外への派遣はありません。かわりに、ほぼ毎日院外からエキスパートの先生を招いています。つまり、病理ではレジデントが居ながらにして多様な指導者、症例に触れることができるのです。結果、全研修期間を大学病院で過ごすことも可能です。

関連病院がないの？ いえ、希望する病院での研修は可能です。ピンチ(=病理医不足)はチャンス。国立がん研究センターや成育医療センターなど旧ナショナルセンターでさえも門戸が開かれており、これら価値ある施設での研修は身を切っても実現させています。

このように 筑波大病理の研修では様々な制限がありません。野口教授の方針もあり、自由な研修が可能です。また、個人的には、子供の急な発熱などに対して、スタッフのバックアップが手厚いことも特筆しておきたいです。

2. 進路について

通常の研修期間を終えた後も、殆どの医師が何らかの形で大学スタッフとして診断、研究、教育に携わります。その後は筑波大スタッフ、他大学スタッフ、留学、県内外基幹病院のスタッフ(長)となっています。

3. 研究について

野口分類に関連した肺腺癌の研究が中心です。詳細まで触れられませんが、アカデミックレジデントを終えた2人の先生が、修了後1年で科学研究費(KAKEN)を取得し、一人前の医学研究者の仲間入りをしています。



最後に
 体力に自信がないから... という理由での選択はお勧めしません。興味や意欲がなければ辛いと思います。ただし、体力には自信がないけど病理は好き、という人、或いは病理を勉強したいけど敷居が高く、と思っている人には、要望に応える研修を用意します。サポートします。興味をもってくださった方、まず気軽にのぞいてみてください。
 担当:菅野 suganomd@md.tsukuba.ac.jp

形態学を分子の言葉で説明する。